

ある南ヨーロッパの留学生からの手紙

学校教育学部留学生

マリア ヴォイヴォディッチ
Marija Vojvodic

DOBDAR BAN 今日は!

Dear Friend

あなたは突然の便りに驚かれたことでしょ
う。

私は思い立って故郷を離れ、今、ある小さ
な島国で暮らしています。

ところで、あなたは“maple leaves”と聞い
てどのようなことを連想しますか。

ここでは秋風が吹き始めると、人々は何か
しらそわそわし始めます。そして、仲のいい
人たちは声をかけ合って色づいた山へと向か
うのです。(こういう習慣を「紅葉狩りに行
く」というのだそうです。)

私もこの秋、生まれて初めてその紅葉狩り
をしに山をたずねました。ここちよい風に吹
かれながら、木の葉のざわめきに耳をかたむ
けたり小さな川面に浮かんで流れる落葉を見
つめたりしていると、何だか時がいつもよ
りゆるやかに流れていくようでした。

たぶん、この国の人々は、ずいぶん前から
こうしていつも自然と向き合い、その移り変
わりに親しみを覚えながら暮らしてきたのだ
と思います。

私にはもう一つ気がついたことがあります。

この国では、人々はせかせかと歩き仕事場
へと向かい、時を忘れてもくもくと働いてい
ます。それでこの小さな島国はとても豊かに
なり、人々はいろいろなものを作り、買い、
いごちのいい生活を手に入れるようになりました。

でも、にぎやかな町から少し足をのばして
みると、昔ながらのたたずまいをした小さな
民家を見つけることができます。そこで人々
は、古いけれども木のぬくもりが感じられる
家具を大切に大切に使い続けています。今で
は少なくなったと言われる障子や襖も、さら
びやかさはないけれども、私には心やすらぐ
ものに映りました。

新しいものの中にも、素朴さと暖かみを感じ
させる古き伝統がひそやかに、しかし、しっ
かりとこの国には根づいているのです。

窓の外では粉雪が舞い、この寒さはもうし
ばらく続きそうです。でも、やがて梅が咲き、
そして桜の花のつぼみも少しずつふくらみ始
めてくることでしょう。暖かくなって春が訪
れるころ、今度は「お花見」“cherry blos-
som”に行けることを、私は今から心待ちに
しているのです。

